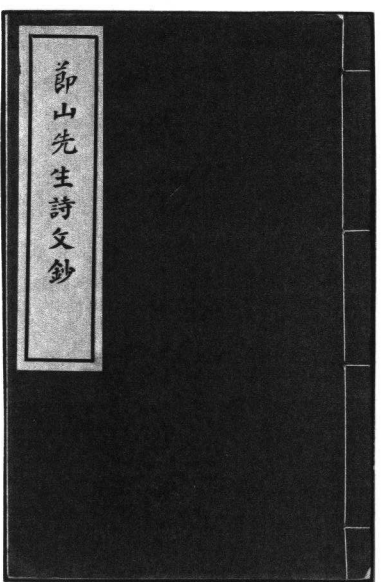


鹽谷溫 しほのう 支那文學者、文學博士。明治十一年七月六日東京生れ、
昭和二十七年六月三日歿（八七—一九〇四）。字十健。號樂水、牧野隱士。
節山、節山學人、節山道人。鹽谷青山の長男。明治二十五年東京帝國
大學文科大學漢學科卒。學務局長教授を経て、大正九年東京帝大教授。
近世支那の小說戯曲を研究。

著書に『興國詩選・皇朝篇』（昭和六年九月五日弘道館）、『周覽詩
抄』（訂正再版・昭和八年五月一日白善菴書院）、『王道は東よ』（
昭和九年九月五日弘道館）、『詩經講話』（昭和十年五月四日弘道
館）、『頼山陽と日本精神』（文部省思想局編、昭和十一年十二月十
五日日本文化協會出版部「日本精神叢書」）、『楠公と頼山陽―附外
史楠史新釋』（多田正知共著、昭和十一年七月十六日蒼龍閣）、『孔
子の人格と教訓』（昭和十二年十月十四日開隆堂書店）、『國譯元曲
選―楚昭公』（昭和十四年四月二十八日白雲書院）、『周田詩鈔』（再
版・昭和十四年五月二十一日青雲書院）、『大東亞戰役詩史』（昭和
十九年十月十五日弘道館圖書株式會社）、『元曲府記』（相水生校正、
昭和二十二年九月十五日吾平堂）、『中國小説の研究』（昭和二十四
年十月五日弘道館）、『微結―
唐詩詩選』（昭和二十年一月十
一日開隆堂出版株式會社）、『大
馬行空』（昭和二十一年七月十
五日日本郵除出版株式會社）、
『節山先生詩文鈔』（内田景・



松田武編、昭和二十二年六月一日鹽谷節山先生八十壽賀紀念會）等。

また、鹽谷先生記念會誌曰（昭和十四年八月）、「予、鹽谷先生記念會（

鹽莊雜話」（川上榮一編、昭和十五年一月）を善哉書院。鹽谷青山

・鹽莊公誌（おのゝり）。

